

県議選補欠選挙・上田市小県郡区

新人4人の選挙戦がスタート

8月9日投票の長野県議会議員補欠選挙・上田市小県郡区（欠員1）が31日に告示され、新人4人による選挙戦がスタートした。

新人4人は届出順
市議会議員の飯島裕貴氏（53）
日本共産党、上田市常磐城5、上田市国分、前上田プログラマーの三井健



飯島氏



師岡氏



草間氏



三井氏

太郎氏（47）
無所属、上田市常磐城5、通称長野五輪記念学校設立準備者の草間重男氏（76）
無所属、小諸市東雲。

◇ ◇

師岡氏は共立高等看護学院卒、元東信医療生活協同組合・上田生協診療所の看護師長。看護師やケアマネージャーとして社会的・経済的困難を抱える患者や家族に寄り添った経験から「暮らしの目線でのちや尊厳に関わる切実なニーズを受け止める姿勢が政治に必要」。「医療・介護従事者の働く環境は年々

過酷になり、現場で頑張っても限界がある」と現場からの声を県政に届けたいとし、「いのち、くらし、人権・平和を守る」としている。

◇ ◇

飯島氏は東京工学院専門学校法律情報科卒、元参議院議員秘書。市議では議会運営委員会副委員長など歴任。市議を務めた経験を生かし、即戦力になれることを強調。中小零細企業の跡継ぎ不在の課題を公民連携で将来世代につなぐなどの地域産業振興、建物が老朽化している県立上田支援学校の建設地選定・新設などで教育の充実、県と関係機関と市町村の更なる連携を強

化、予防医学の推進などの健康福祉を掲げ、次世代につなぐとしている。

◇ ◇

三井氏は長野高専卒、県内精密機器メーカーや米国企業に勤務、帰国後にソフトウェア会社を創業。「うえだ週末案内」を開発・運営。「県石油商業組合のカルテルの件から、県や県議会のチェック機能をしっかりとさせたい」とし、加入率減少が課題の自治会が市民の重荷になっているため、公益負担分を自治会費から切り出して住民税と一緒にする仕組みに変更。公共施設削減に向けて、データを可視化できるツールを使いながら議

◇ ◇

草間氏は山形大学工学部卒、元会社員、元福祉施設職員。「2回目の長野五輪の動きがある。一校一運動を復活させたい」と五輪招致の機運を高め、平和を訴えたいとしている。大会には上田市の「岳の幟」や御代田町の「龍神まつり」を出演させることを提案。山形や秋田新幹線のように、北陸新幹線を軽井沢から在来線に乗り入れて松本を結ぶ構想を打ち出す。選挙制度で、立候補するために必要な供託金など制度の見直しについても訴えている。